

ホーム

ニュース

出版物

イベント

広告・特集

電氣新聞について

トップ

主要ニュース

電力・エネルギー

産業・技術

工事・保安

地域

フォト

スペシャル

エネルギー業界プレスリリース

ホーム

ニュース

主要ニュース

記事本文

News 主要ニュース

南琉球で津波の痕跡確認－東大研究チーム、人的被害も

ツイート

2013/08/16



津波で打ち上げられたと伝えられる「津波石」

17世紀以前の津波の情報がほとんど残っていない沖縄の宮古・八重山列島（南琉球列島）地域で、過去2400年間にわたり、約150～400年の周期で建物や人的被害をもたらす規模の津波が発生していることが明らかになった。東京大学などの研究チームが「津波石」と呼ばれるサンゴの化石の放射性炭素年代測定で、過去の津波の発生時期を推定した。

研究を行ったのは、東京大学大学院新領域創成科学研究科の荒岡大輔氏と、同大大気海洋研究所の横山祐典准教授、川幡穂高教授、東北大学災害科学国際研究所の後藤和久准教授。南琉球列島地域で地質記録から津波の再来周期を見積もったのは今回が初となる。

（本紙1面より）